

第13回 小型航空機等に係る安全推進委員会議事概要

日 時： 2025年2月14日（金）15:00～17:00

場 所： 国土交通省（中央合同庁舎3号館）7階A会議室及びwebによるハイブリッド開催

以下は、委員からの主なご意見、ご指摘

（⇒は事務局の発言）

小型航空機等による航空事故等の発生状況

○RUNWAY INCURSION に関して、航空機は上空においては三次元であるため、他の航空機が接近してきた際に避けることができるが、滑走路路上においては一次元であるため、避けることができない。これは小型機だけではなく、航空界全体で滑走路は非常にリスクが高いところであることを再認識することが必要。

○CRM に関して、安全を確保する技術は、テクニカルスキルとノンテクニカルスキルがあり、双方があって効果を発揮することができる。航空会社では CRM が浸透し、徹底されているところであるが、小型機のパイロットには浸透が難しいと思われるが、「全てのリソースを使い安全を確保する」という考え方を浸透させることが必要。

○タービンブレード等の航空機部品の破損に関して、耐空検査のデータのようなものを集計するようなことができれば、潜在的な不具合を調べることが可能になるのではないか。

○ヒューマンエラーの防止に関して、運航者側と航空局側でコミュニケーションの機会を増やすなど、パイロット以外でも何か取り組むと良いのではないか。

小型航空機等の安全性向上に向けた取組状況及び今後の方向性

【安全情報発信強化の取り組み】

○講習会等のパイロットが集まったタイミングで情報発信を継続していくことが必要。

○講習会と審査をセットにすることで、安全情報を入手してもらうきっかけを作る方法もあるのではないか。

○パイロットのイメージフライトは重要であり、動画というのは大変効果がある。パイロットは地上走行動画等を有効に使っていただきたい。

○ヘリコプターの視点などの動画があると良いと思う。

○地上走行動画の空港を増やすことに加え、空港ごとの特有の事項についても動画内で知らせることも良いのではないか。

【新技術の活用】

○FDM に関し、実装しているパイロットがどのように利用しているのかを確認し、他のパイロットに共有できると良いのではないか。

○以前の委員会で一度難しいと判断されたが、自家用パイロットが使用している FDM のデータを公的に集め、経験のあるパイロットに確認してもらい、スキルの観点からレビュー・レポートを作成し、自家用パイロットに通知するサービスについて、今一度検討しても良いのではないか。海外ではそのようなサービスはあると聞いている。

○電波を発するタブレット・スマートフォンの活用に関し、航空機に対する耐性確認が以前からハードルになっており、いかに耐性確認を簡潔にできるか今後整理できると良いのではないか。

○タブレットやスマートフォン、モバイルバッテリーに係る耐性確認については航空局からはそこまで難しくないと聞いているため、Q&A 等によりアドバイスができれば多く普及するのではないか。

（第三部）審議事項

○CRM 訓練は原則登録訓練機関が行うということだが、訓練内容にばらつきがないよう、ガイドラインみたいなものが必要。

⇒航空局としては、登録訓練機関の要件や訓練の内容については業界の皆さまの声を聞きながら検討する。

○CRM 訓練に関しては、十分な準備期間を確保し実効性がある訓練にする必要がある。

○操縦訓練中に事故・重大インシデントが発生していることが増えていることを踏まえ、座談会は早い段階で企画していただけると安全が格段に向上すると思う。

○審議事項については、全て承認いただいた。

以上